

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272100744		
法人名	社会福祉法人柏友会		
事業所名	グループホーム桑寿園		
所在地	〒038-3104青森県つがる市柏桑野木田字若宮255番地1		
自己評価作成日	平成 30年 9月 5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 30年 10月 22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に職員全員で唱和している。毎日唱和する事で、意識しながら業務にあたる事ができている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	福祉祭りと一緒に行う夏祭りや餅つき、念仏講等で地域の方と交流し、昔ながらの行事を楽しむことができている。保育園や小中学校の行事にも参加している。地域の方と交流する事で皆さんの励みとなっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の方や家族の方がホームへ来たときには介護の不安などの相談に応じている。地元中小学校の生徒の訪問時には必ず触れ合いの場を作り関わりを持っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回(2ヶ月に1回)の運営推進会議では地区代表の方々や、市職員、家族代表、入居者代表の方達が参加してくださり意見交換をしながらサービスの向上に活かしている。又欠席の方には会議録を送付している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当職員が運営推進会議に参加され、介護現場の状態を把握し、お互いの情報共有する事で信頼関係が構築されている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、日常の中で入居者を束縛しない介護を心掛けている。ケアの中で身体拘束が行われていないか定期的に委員会を開き、話し合いしながら振り返る機会を設けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	どのような行為が虐待に繋がるのか全職員が理解していくため園内外の研修に参加している。虐待を見逃さないように職員同士意識を高め、日々の業務にあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員1人1人が成年後見入居制度の必要性を知っており、1名の入居者さんが日常生活自立支援事業の支援を受けている。毎月、事業所職員の面会時にはその場に立ち会い、必要手続きのやりとりを見守りしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退所時や契約内容の改定時には、利用者や家族の同意を得ている。状態に応じての住み替えや長期入院のため退所となる時は十分に説明や話し合いをし理解をいただいている。退院後の相談にも応じて安心して退院できるよう支援している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には気軽に話せる環境を整え、入居者や家族が意見や要望が話せるようにコミュニケーションを図っている。各ユニットの玄関には意見箱を設置している。又年1回家族アンケートを行い運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に数回特養との合同会議や運営会議、会議内容を職員全員が周知出来る様に会議録を回覧している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の健康診断や腰痛検査を実施し今年度から、ストレスチェックを実施している。毎月誕生日の職員には園からプレゼントとして花を送っている。又年1回職員の評価を行い、給料へ反映する事で意欲的に仕事をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のスキルアップのため内部研修や外部研修を受ける機会を作り人材育成に努めている。又資格習得のため外部への勉強会や研修への参加にも理解を深めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国及び西北五グループホーム協会に加盟し総合研修会に職員を参加させ、懇親会で意見交換や情報交換を行い交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人、家族と面会し訴えや思いを聞いている。不安な思いを汲み取り、必要な援助が出来るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から家族の思いや悩みの情報収集し、ケアプランにも反映している。面会時、不安や悩みを解決出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が安心して生活する為に必要なサービスについて、その都度話し合いをしている。状況の変化に応じて支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩である事を念頭におき、昔の生活や知恵を教えて貰う事で感謝の気持ちを日頃から声に出して伝えている。また生活の中で、毎日の軽作業や役割をして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時や電話、お便り等でホームでの生活の様子を伝えている。家族の協力を仰ぎながら共に本人を支えていく関係作りができています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域で生活してきた関係性が途切れないように馴染みの理容、美容院、かかりつけの病院や小中学校、ショッピングモールへ出かけ地域の方と交流が取れるよう支援している。知り合い同士の入居者がいたらユニットへ出かけて交流を持っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の性格や認知症状を職員が把握し、入居者同士の関わりがスムーズに行えるように席や順番を配慮しながら支援している。関わりが上手くできない方には、職員が間に入りながら交流が少しでも持てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	住み替えや入院でサービスが終了しても、必要に応じていつでも相談を受けられるような関係作りに努めている。家族や本人へ地域住民が参加している行事等にも参加を促している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、本人の思いや希望を汲みとれるようにしている。ケア会議や本人を交えた担当者会議を行い、本人・家族の意向を尊重し、希望に添ったケアプランを作成している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活してきた様子を家族や本人に尋ねた上でセンター方式などを作成し、今まで暮らしていた生活に近づけるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康状態に合わせて、1人ひとりに合った生活リズムで過ごして頂いている。また、軽作業の手伝いをしていただき本人の出来る能力を引き出せるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活での課題やケアのあり方について、本人や家族の意見を尊重し受け入れている。他職種の管理栄養士や理学療法士、また主治医・看護師に相談しながら状態に変化があれば直ぐに見直しを行い、本人主体に計画している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきは個々に記録し、職員が確認出来るようにしている。申し送りや連絡ノートで入居者の変化に気づいた時は介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出、通院、外泊等の緊急な対応も本人や家族の要望に応じ柔軟に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	女子美大OB会の絵手紙教室、消防署の総合訓練、その他カラオケ、老人会等の訪問があり、保育園・中小学校の運動会や発表会の招待など地域ぐるみで支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医に、継続して通院出来るように支援している。必要時には家族と連絡を取り合いながら他の医療機関への受診介助も行っている。面会時や電話等で近況報告と併せて受診内容について報告している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化に気付いた時は、グループホームの看護師、また施設の看護師に状態を伝え、24時間体制がとれている。適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報交換し環境の変化による不安や家族の不安を和らげるように、主治医や家族と今後の対応について話し合いをしている。医療的処置が必要な場合は適切な施設が利用出来るように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化により医師や看護師と連携を取りながら本人や家族の意志を踏まえ安心して納得した最後を迎えられるよう意志を確認し同意書ももらっている。終末期の看取り等について可能であるがグループホームとしての「出来る事、出来ない事」を十分に説明しチームで支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生に直ぐに対応出来るようマニュアルを準備し、目につきやすい場所へ設置している。研修委員会を設置し職員は応急手当や感染症等の研修を受け全員が認識できる様にしている。。また救命講習も受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合避難訓練やグループホーム内での避難訓練、又非常時の物品点検を行っている。緊急連絡網の確認など全職員が認識している。非常時には、直ぐに駆けつけてくれる地域との協力体制を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者1人1人の生活状態を把握し、言葉掛けや本人の思いを尊重しながら、生活全般を通してプライバシーを損ねないように対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	1人1人の状態を把握し、会話の中から思いや希望を聞き取り、自己決定しやすい様に質問しながら本人の思いを汲み取り、満足できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人の心身の状態に合わせ、その時々状況や本人の思いに添いながら安心して生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1人ひとりの生活歴や習慣を把握しながら、その人らしい服装や化粧をする事により身だしなみが保てるよう支援している。又本人の好みや自己決定を大切にしながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑の野菜と一緒に収穫し、取れたての野菜を調理して食卓に提供している。今年度は季節を感じて貰えるよう四季に渡り食事会を計画している。食事準備から片付けまで全員の方に携わって頂き、まだできる事への喜びや自信へ繋げている。家族団らんのように、職員と一緒に談話しながら食事を楽しむ機会を作っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士のバランスの取れた献立に添った食事を提供している。食事量や水分量は個別に記録し状態を把握している。体調不良や少食の方へは調理法を工夫した補食等行い支援している。水分を摂りたがらない方へは好みの飲み物を購入している。今年の夏は手作りの経口補水		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後うがいの一部介助、義歯洗浄剤用いて清潔保持に努めている。また自分でできる方へは声掛けして見守りしている。義歯の不具合や歯茎の痛み生じた時は専門医へ受診したり、歯科の訪問診療を利用して治療やアドバイスを受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、習慣やパターンに応じたトイレへの声掛けや誘導を行っている。一人ひとりの排泄状況を把握し、変化が見られたら排泄部会やケア会議で話し合いをし、必要に応じて見直しを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	規則正しい生活を心掛け、活動で毎日運動を取り入れながら支援している。排便困難な方へは腹部マッサージをして排便を促す様にしている。排便の確認ができない時は主治医に相談して下剤や整腸剤を処方していただいている。水分量も大事なので、好みの飲み物を提供しながらこまめに水分が摂れるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	決まった入浴日はなく、希望があれば毎日入浴できる。入居者の希望により週2～3回の入浴が出来ている。体調不良で入浴できない方へは清拭や足浴手浴で清潔保持を図っている。認知症の進行や、身体的な機能の低下で入浴困難な入居者へは職員二人で対応したりと個々に応じた入浴支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人ひとりの意志を尊重しながら午睡や就寝支援を行っている。夜間の排泄用品を個々に合わせて使用する事で安眠に繋げている。季節ごとに居室や居間の温度変化に気を付けて寝具や衣類、冷暖房を使用しながら心地よい環境作りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を利用者別にファイルし、いつでも確認できるようにしている。服薬時には名前を読み上げ顔を確認し、見守りしながら確実に飲み込んだ事を再確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じた軽作業を見つけ、洗濯たたみや食器洗い、食器拭き等を毎日の日課とし、自信と満足が得られるように支援している。誕生日にはみんなでお祝いしたり、四季の食事会では調理にも関わりながら昔を思い出し、懐かしんでいただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	個別対応として買い物や美容院へ出かけたい要望があれば速やかに支援している。春には全員で外出する機会を設け外食を楽しむことができた。又家族から外出の要望があれば直ぐに出かけられるよう身支度の支援をし喜びを共有できている。お盆や法要の時は先祖供養を家族と一緒にできるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の希望や能力に合わせて金銭管理が出来る人には所持していただいている。小遣い預かりしている方でも、外出時に好きなメニューを選び支払いが出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある方は電話を使って家族とやりとりが出来るように支援している。電話の出来ない方には介助でやりとりが出来るよう支援している。年末には年賀状制作や、家族へ自筆の年賀状を出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節のお花や植物、作品を飾り季節を感じて貰えるようにしている。また、金魚を飼育したことで廊下の片隅が癒しの空間となり、入居者同士のコミュニケーションの場所となっている。居室やホールには温度計や湿度計を置き、温度や湿度調整をして居心地良く暮らせるよう支援している。今年はプランターに野菜を植え、ベランダで毎日成長を楽しめるよう支援した。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座る場所は決まっているか、気のあつた入居者同士が席を移動して楽しく語り合えるように配慮している。夕方落ち着いた方へは、居間から離れた場所の椅子に座り、独りで静かな時間を過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある空間を作るために使い慣れた日用品や家具、見慣れた写真を置いている。仏壇と位牌を持ってこられた方へは毎日水を取り替えたり、お菓子を本人と一緒に供えている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ、風呂の入り口に目印をつけ解りやすくしている。居室に洗面台が設置されているので、整容や洗顔、歯磨きが出来方は自分で行えるようにしている。		